
ハートキャッチプリキュア外伝 ビギンズナイト キュアムーンライト物語

月影ノブヒコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハートキャッチプリキュア外伝 ビギンズナイト キュアムーン
ライト物語

【Nコード】

N9471T

【作者名】

月影ノブヒコ

【あらすじ】

TVシリーズや映画で描けなかったキュアムーンライトの物語。
月影ゆりは何故プリキュアになったのかその真実が今、明らかとなる！

プロローグ（前書き）

この小説はハトプリストの後日談となっておりますのでご了承ください。

プロローグ

なのはの世界から、一週間が経った。

つぼみ「お花さん、元気に咲いて下さい。」

シプレ「ですう。」

えりか「つぼみー！」

つぼみ「あ、えりか。また遊びに来たのですか？」

えりか「違う違う。なのは達どうなってるのか聞きたかったな、
と思つて。」

つぼみ「なのはさん達はもちろん元気だと思いますよ。今もエース
オブエースとしてやっていますからね。」

コフレ「でもフェイトさんはプリキュアとしてなのはさん達と一緒に
戦ってるのですか？」

えりか「もちろんじゃない！フェイトはプリキュアになったのは驚
いちゃったけど、フェイトは強いに決まってるじゃん！」

つぼみ「そうですね。」

いつき「二人とも、何の話してるの？」

そこに、いつきとポプリがやって来た。

えりか「いつき!」

いつき「なのはさん達の話?」

つぼみ「はい!」

いつき「そっか。ヴィヴィオちゃん、元気にしてるかな?」

つぼみ「もちろんですよ!」

いつき「だよね。」

ゆり「~~皆~~。」

そこに、ゆりがやって来る。

つぼみ「ゆりさん!」

ゆり「今日は元気そうね。」

えりか「もちろん!」

いつき「ゆりさんも元気ですね!」

ゆり「ええ。」

つぼみ「……」

えりか「つぼみ?」

つぼみ「ゆりさん!」

ゆり「何?」

つぼみ「ゆりさんは……ゆりさんはどうして、プリキュアになったのですか?」

ゆり「ん?」

えりか「あ、そうそう!あたしも気になる!」

いつき「僕も気になってた。ゆりさん、聞かせて下さい!」

ゆり「……」

薫子「教えてあげたらどうなの?ゆりちゃん。」

そこに、薫子がやって来た。

ゆり「薫子さん。でも……」

薫子「ゆりちゃん。」

ゆり「分かりました。皆、私がどうしてプリキュアになったか、説明するわ。」

ゆりはどうしてプリキュアになったのかキュアムーンライトのピギンズナイトが始まる。

プロローグ（後書き）

この小説は短いかもしれませんが、暖かい目で見れば幸いです。

ゆりの過去（前書き）

この小説での主役はゆりなのでつぼみ達の出番は少ないと思います。

ゆりの過去

それは、つぼみ達がプリキュアになった三年前の出来事であった。

ゆり「おはよう。」

ゆりは14歳。彼女はまだプリキュアになる前である。

???「おはようゆりちゃん！」

そこに、男性がやって来る。

ゆり「おはよう。それと、そんな挨拶やめてくれる？」

???「ごめんゆりちゃん！でも俺はそういうのが趣味なんだ！」

ゆり「全く、えいたはもう・・・」

彼は照井えいた。ゆりの友達である。

ゆり「えいた、お父さんとお母さんはは上手くやってる？」

えいた「うん、上手くやってるよ。」

ゆり「そう。」

えいた「でもパパはね、警察が忙しくて中々休みは取れないし、ママは探偵事務所はまだ所長やってるんだ。」

ゆり「そう。貴方のお父さんとお母さんは大変ね。」

えいた「ホントだよ、ったく〜。」

ももか「えいた、ゆり、おはよう!」

そこに、ももかがやって来る。

ゆり「おはようももか。」

えいた「おはようももかちゃん!」

ももか「今日も頑張ろう!二人とも!」

ゆり「ええ。」

えいた「おう!」

ゆりの自宅

ゆり「ただいま。」

ゆりは自分の部屋に入る。

ゆり「・・・」

ゆりは写真を見る。

ゆり「お父さん。何処にいるの？私・・・」

ゆりはもう一つの写真を見る。

ゆり「お兄さん。」

回想

月影ノブヒコ。それは、ゆりはまだ10歳の出来事であった。

ゆり『お兄さん、何処に行くの？』

ノブヒコ『これから私、仕事に行く。』

ゆり『お兄さん、忙しいんだね。』

ノブヒコ『ああ。』

ゆり『私、お母さんと一緒に暮らすなんて・・・』

ノブヒコはゆりに抱き付く。

ノブヒコ『大丈夫だ。俺は必ず此処に帰る。だから、もう少しの辛抱だぞ。』

ゆり『うん。』

ノブヒコ『何があっても、俺は必ずゆりを守る。』

ゆり『約束だよ、お兄さん。』

ノブヒコ『うん、兄妹との約束だ。』

ゆり『うん!』

回想終了

ゆり『何があっても、俺は必ずゆりを守る。』って約束したじゃない。お兄さんの嘘つき。』

ピンポーン!

ゆり『ん?』

ゆりはドアを開くとそこには、えいたがいた。

ゆり『えいた、いらっしやい。』

えいた「ゆりちゃん、邪魔するよ。」

何故かえいたは元気がなかった。

ゆり「えいた、どうしたの？」

えいた「あ、何でもないよ。」

ゆり「そう。」

えいた「あのさ、ゆりちゃん。」

ゆり「何？」

えいた「明日は俺……」

ゆり「ん？」

えいた「明日、デートしない？」

ゆり「デート？」

えいた「うん、明日遊園地に行ってデートしよう。そこで話があるんだ。」

ゆり「いいよ。話があるというのなら、デートしてあげるよ。」

えいた「ありがとう、ゆりちゃん。」

えいたは帰る。

ゆり「えいた、どうしたのかしら？」

ゆりはえいたの心の花が枯れているという事は知らなかった。その頃、ゆりを見ていたぬいぐるみ？がいた。

???「ついに砂漠の使徒が・・・来た。」

ゆりの過去（後書き）

この小説はMOVIE大戦COREのようになるかもしれません。

ゆりとえいたのデート

ゆりの自宅

ゆり「えいた、一体どうしたのかしら？」

ゆりはえいたの事が心配であった。

ゆり「ん？」

空から、流れ星が流れていた。

ゆり「流れ星か。」

ゆりは流れ星を見て、何かを願っていた。

ゆり（どうかお父さんが此処に帰って来ますように。）

????「願い事かい？」

ゆり「誰!？」

ゆりは後ろの方に向くと、そこにはぬいぐるみ?がいた。

????「僕の名はコロン。心の大樹から生まれた妖精だ。」

ゆり「妖精?」

ぬいぐるみ?の名はコロンという。

コロン「君は何の願いをしていたのかね？」

ゆり「教えないわ。」

コロン「そう。」

ゆり「貴方、コロンと言ったっかしら？こんな所で何の用なの？」

コロン「砂漠の使徒がこの地球に来る事を知らせに来たんだ。」

ゆり「砂漠の使徒？」

コロン「そうだ。砂漠の使徒がこの地球にやって来るんだ。だから君に……」

ゆり「だから何？それで協力して欲しいと？」

コロン「そうだ。君と一緒に……」

ゆり「断るわ。お母さんが心配してるから。帰って頂戴。」

コロン「しかし……」

ゆり「帰って。」

コロン「分かった。君がそついうのなら、僕は帰るからね。」

コロンは此処から去る。

ゆり「お父さん。」

砂漠の使徒の基地

???「あれが、地球か。」

彼の名はサバーク。砂漠の使徒の博士である。

???「地球なんてくっだらない星だよね。」

彼女の名はサソリーナ。サソリのような砂漠の使徒の部下である。

???「この地球を砂漠化するては、いい度胸ジャキ。」

彼はクモジャキ。クモのような砂漠の使徒の部下である。 狼鬼
の声をしていた人です。

???「地球を砂漠化すれば、美しい星となるだろう。」

彼はコブラージャ。コブラのような砂漠の使徒の部下である。 ワ
ルズ・ギルの声をしている人です。

サソリーナ「サバーク博士、この私、サソリーナにお任せを……」

サバーク「行け。」

サソリーナ「は！」

サソリーナは地球へ向かった。

クモジャキー「くっ！」

コブラージャ「クモジャキー、此処は落ち着いた方がいいよ。」

クモジャキー「そうだな。」

サバーク「……」

遊園地

えいた（どうしよう？俺、ゆりに何て言ったらいいんだろっ…）

えいたはまだ悩んでいた。

ゆり「えいた、お待たせ。」

ゆりがやって来た。

えいた「ゆりちゃん、俺……」

ゆり「デートでしょ？早く行きましょう。」

えいた「あ、ちょっと待ってよ！」

ゆりとえいたは、遊園地で楽しんでいた。

えいた「あのさ、ゆりちゃん。」

ゆり「何？」

えいた「俺、本当は……俺は……」

ゆり「どうしたの？さっきから変よ。」

えいた「いや、俺はいつも通りだよ。」

ゆり「えいた、何を隠してるの？何か言いなさい。」

えいた「何でもないよ。」

ゆり「えいた。」

えいた「何でもないって言ってるだろ！」

えいたは怒鳴った。

ゆり「えいた。」

えいた「あ、ごめん。ちょっとトイレに行つて来る。」

えいたはトイレの所へ行つた。

ゆり「えいた、どうしたのかしら？」

ももか「ゆりー！」

そこに、ももかがやって来た。

ゆり「ももか。」

ももか「えいた君の音がしていたけど、何かあったの？」

ゆり「私には分からないわ。」

ももか「そうなの。それとゆり、ちょっといい？」

ゆり「いいけど。(えいた)」

キュアムーンライト誕生！

えいた「くっそー！」

えいたは地面を叩く。

えいた「俺は一体どうしたらいいんだ？俺はゆりに、何て言えばいいんだ？くっそ。」

えいたは涙を出す。

サソリーナ「しょんぼりした子見つけ。」

えいたの後ろからサソリーナが現れる。

えいた「誰だ!？」

サソリーナ「私は砂漠の使徒の幹部、サソリーナよ。フッフ。」

サソリーナはえいたの心の花を見る。

サソリーナ「いい花じゃない。その花、奪っわよ！心の花よ！出て来てー！」

えいた「うわあああああ！」

えいたは心の花に変わってしまい、球体の中にはえいたがいた。

サソリーナ「ん？これにしようつと」

サソリーナはバックを見つけ、そして・・・

サソリーナ「デザトリアンの、お出ましよー!」

バックデザトリアンとなった。

ももか「ねえゆり。」

ゆり「何?」

ももか「さっき聞いた君と一緒にいたでしょ? 聞いた君、何処に行つたの?」

ゆり「分からないわ。」

すると・・・

「キヤアアアアア!」

ゆり「ん?」

ももか「何かしら？」

二人の前に、バツクデザトリアンが現れた。

ももか「何あれ？」

サソリーナ「デザトリアン！ やっちゃってー！」

ゆり（あれって確か、コロンという子が言っていた・・・）

コロン『人の心の花が枯れてしまったら、心の花が砂漠の使徒が奪われ、デザトリアンになってしまうんだ。』

ゆり（じゃあ誰かが心の花を奪われたんだわ。）

ももか「何してるのゆり！？ 逃げるよ！」

ゆりとももかは逃げる。

サソリーナ「もっともっと暴れてー！」

するとバツクデザトリアンは・・・

デザトリアン「俺はどうしたらいいんだ？俺はゆりに何て言えばいいんだ？俺はお父さんとお母さんの町に帰って別の学校に転校するのを伝えるだけなのに、俺はゆりの前に言う事は出来ない！俺はどうしたらいいんだー！？」

ゆり「貴方、まさかえいたなの！？」

ももか「え、えいた君!？」

デザトリアン「うわあああああああ！」

デザトリアンはビームを放ち、上にあつた観覧車がバランスを崩れ、二人の所に落ちていく。

ももか「キヤアアアアアアア！」

ゆり「ももか！」

二人は逃げず、ゆりはももかを支える。

ゆり「お父さん。」

もう駄目かと思つたその時!

コロン「君はもう諦めるのかい？」

ゆり「え？」

二人の周りから、バリアが現れ、二人は助かる。

サソリーナ「何!？」

ゆり「これは・・・ももか。」

ももかは気を失っていた。

コロン「やあ、また会つたね。」

ゆり「貴方・・・」

コロン「君の友達の球体を取りに来たよ。」

コロンの手には、えいたの球体があった。

ゆり「貴方、それを何処で・・・」

コロン「話は後だよ。早くデザトリアンを浄化するんだ。」

ゆり「でもどうやって・・・」

コロン「君が僕の手伝いをするんだ。」

ゆり「またそれ？何度も言うけど、断るわ。」

コロン「そう。でもホントにいいのかい？このまま放っておけばデザトリアンは暴れ続け、心の花は完全に枯れてしまつと君の友達は二度と戻れなくなるんだぞ。」

ゆり「・・・」

サソリーナ「別の学校に転校する事を伝えるのってくっだらないわね〜。」

ゆり「・・・つた？」

サソリーナ「ん？」

ゆり「えいたに今、何て言ってるの？」

サソリーナ「そんな事を伝えるなんてくだらない事だよね。」

ゆり「くだらない？何処がなの？えいたの言ってる事はくだらなくはないわ！私はえいたと遊ぶのは最後だと私は知らなかった。でも、えいたといて楽しかった。凄く楽しかった。それを・・・」

ゆりは拳を握る。

ゆり「それをえいたにくだらない事を言うなんて、貴方だけは許せない！」

コロン「・・・」

ゆり「決めた。私、貴方の手伝いをするわ。」

コロン「そうか。君ならそう言おうと思ったよ！」

コロンはココロパフォームを出し、ゆりを渡す。

ゆり「これは？」

コロン「これはココロパフォーム。これを使えば、変身出来る。」

ゆり「変身？」

サソリーナ「デザトリアン！あんな奴なんか潰しちゃって〜！」

デザトリアン「うおおおおおおお〜！」

コロンはプリキュアの種を出す。

コロン「さあ、早く変身するんだ！」

ゆり「分かったわ。」

ゆりはプリキュアの種を手に取り、変身しようとしたが、一足遅くデザトリアンに踏み潰される。

サソリーナ「あゝらら、潰れちゃったわね。」

コロン「・・・」

その時！デザトリアンの手から光が放った！

サソリーナ「な、何！？」

デザトリアンは吹っ飛ばす。そして光の中から、ゆりの姿がなく、ゆりは新しい姿に変身した。

ゆり？「これは？」

ゆり？は鏡を見る。

ゆり？「これが私？」

コロン「そう。その姿が、伝説の戦士、プリキュアだよ。」

ゆり？「プリキュア？これが・・・」

サソリーナ「な、何あれ！？美し過ぎるわ！」

コロン「名前はどつする？好きな名前でもいいぞ。」

ゆり？「そうだね、まるで・・・」

空の背景は夜になり、ゆり？は月を見る。

ゆり？「まるで、月の光のようなものかしら？」

コロン「来るぞ！」

サソリーナ「デザトリアン！あんな奴なんかやっちゃってー！」

バックデザトリアンはビームを放つが・・・

ゆり？「フッ！」

ゆり？の手からバリアを張り、攻撃を防ぐ。

サソリーナ「嘘ぐん！？」

ゆり？「えいた、私は貴方を助ける。全ての心の満ちるまで・・・

私は戦い続ける！」

サソリーナ「な、何を言っちゃってんのよー！？だいたい貴方何者よー！？」

ゆり？「名前は決まったわ。私の名は・・・月光に冴える一輪の花、

キュアムーンライト！」

その頃、別の場所では・・・

「ダークプリキュア・・・」

ダークプリキュアはキュアムーンライトの戦いを見ていた。

キュアムーンライトの力

サソリーナ「キュアムーンライト？プリキュア？何なのか知らないけどデザトリアン！やっっちゃって〜！」

バックデザトリアンはムーンライトに攻撃しようとするが、ムーンライトは片手で止める。

ムーンライト「ふっ！」

ムーンライトは反撃し、デザトリアンは倒れる。

サソリーナ「な、何よあの強さ！？半端じゃないわ！」

コロン（流石だね、キュアムーンライト。）

ムーンライト「えいた、貴方は私を伝えるために私とデートしたんだね。ありがとう。私はとても嬉しかったわ。えいたと友達になれて。」

デザトリアン「・・・」

ムーンライト「えいた、私は貴方を・・・絶対に助ける！集まれ！花のパワー！ムーンタクト！」

ムーンライトの手にムーンタクトを出す。

ムーンライト「花よ輝け！プリキュア！シルバーフォルテウェイブ！」

ムーンライトの必殺技、『シルバーフォルテウェイブ』でバックデザトリアンに直撃する。

ムーンライト「ハアアアアアアアアアア・・・」

デザトリアン「ポワワワワーン」

デザトリアンは浄化し、心の花はムーンライトの手に取る。

サソリーナ「キー！プリキュアがいるなんて、そんなの聞いてないわよー！」

サソリーナは消えた。

コロン「やったね、キュアムーンライト。」

ムーンライト「うんうん、貴方のおかげよ。ありがとう。」

コロン「！」

ムーンライト「どうしたの？」

コロン「何だ？これは？」

ムーンライトは後ろに振り向くと、そこにはダークプリキュアがいた。た。

ダークプリキュア「貴様がサバーク博士が言っていた伝説の戦士、プリキュアか？」

ムーンライト「貴方、一体何者なの？」

ダークプリキュア「私はダークプリキュア。サバーク博士に作られた闇のプリキュアだ。」

ムーンライト「ダーク・・・プリキュア。」

ダークプリキュア「キュアムーンライトと言ったか？また会おう。」

ダークプリキュアは消えた。

ムーンライト「・・・」

ムーンライトは心の花と球体をくつつくと、えいたの姿に戻る。

ももか「う、うん・・・」

ももかは目を覚ます。

ももか「あれ？私って一体・・・ゆり！」

ももかはえいたを抱えているゆりを見つける。

ももか「ゆり！えいた君どうしたの？」

ゆり「大丈夫よももか。えいたは気を失っているから。」

ももか「そう。さっきの怪人は？」

ゆり「消えたよ。」

ももか「消えた？どういう事？」

ゆり「知らないわ。」

えいた「う、うん・・・此処は？」

えいたは目を覚ます。

ももか「えいた君！大丈夫？」

えいた「ゆりちゃん、ももかちゃん。」

ゆり「こんな所で寝ていたら風邪引くわよ。」

えいた「ごめん。（あの夢、あの人は綺麗で美人だった。俺はあの人に、助けてくれたのかな？）」

ゆり「えいた、どうしたの？」

えいた「いや、何でもない。あのさ、俺・・・」

ゆり「別の町に行くんでしょ？お父さんとお母さんと一緒に・・・」

えいた「え？どうしてそれを・・・」

ゆり「ちよつと色々あってね。」

えいた「そうか。」

ゆり「えいたと最後に遊んだのは楽しかったわ。」

えいた「え？」

ゆり「えいた。離れても、貴方は私達の友達だよ。」

えいた「ゆり。」

ももか「そうだね。えいた君、向こうも頑張ってる！」

えいた「ああ！」

そして1週間がたち、えいたは父と母と一緒に別の町へ旅だった。

ももか「行っちゃったね。」

ゆり「うん。」

ももか「じゃあ私はモデルに行くから先に帰ってね。」

ゆり「分かったわ。」

ももかとゆりは離れる。

コロン「またえいたという子に会えるのかい？」

ゆり「ええ。また会えるわ。いつかきつと……。」

コロン「そう。キュアムーンライト。」

ゆり「何？」

コロン「ちょっと寄りたい所があるんだ。」

ゆり「え？」

コロン「連れて来てくれる？」

ゆり「分かったわ。」

コロン「ありがとう。じゃあ一緒に行こう。」

ゆり「ええ。」

コロンはゆりを連れて、ある場所に行った。

キュアムーンライトの力(後書き)

次回は完結です。

新たな始まり

砂漠の使徒の基地

サバーク「伝説の戦士プリキュアだと？」

サソリーナ「はい。」

サソリーナは砂漠の使徒の基地を帰還し、伝説の戦士プリキュア、キュアムーンライトが現れた事を報告した。それを聞いたサバークは・・・

サバーク「・・・」

サソリーナ「サバーク博士、何かご存じですか？」

サバーク「デーン様から聞いた事がある。デーン様は伝説の戦士プリキュア、キュアフラワーがデーン様の力を封印していたそうだ。」

サソリーナ「・・・」

ダークプリキュア「サバーク博士。」

そこに、ダークプリキュアがやって来た。

サバーク「ダークプリキュア。何処に行ってた？」

ダークプリキュア「キュアムーンライトという奴に調べました。」

サバーク「そうか。」

クモジャキー「キュアムーンライトか。中々おもしろい奴だな。」

サソリーナ「クモジャキー、まさかあたしの話を聞いてたの？」

クモジャキー「別に。俺はキュアムーンライトという奴が興味あるから俺と戦ってみたいぜよ。」

コブラージャ「僕もキュアムーンライトに興味があつてね、僕も行って貰うよ。」

サソリーナ「何よ！勝手に決めて・・・」

サバーク「好きにしる。」

サソリーナ「サバーク博士!？」

クモジャキー「では好きにやらせて貰うぜよ。」

二人は消えた。

サソリーナ「キー！何よ！ホントにムカつくー！」

サバーク「行くぞ。」

サバークは自分の部屋に入った。

ダークプリキュア「キュアムーンライト・・・か。」

ダークプリキュアは空を見た。

ダークプリキュア「ミーナ。」

ダークプリキュアはミーナという名を言ったら、サバークの部屋に入った。

此処は植物園

ゆり「コロン、何で植物園なの？誰かに見られたらどうするの？」

コロン「大丈夫だよ。此処には60年前、プリキュアになって戦った人がいるから。」

ゆり「60年前？どういう事？」

「???」「私はプリキュアとして戦ったの。」

そこに、お年寄りのおばあちゃんがやって来た。

ゆり「貴方は？」

「????」「ようこそ、植物園へ、ゆりちゃん。」

ゆり「何で私の名前を?」

「????」「貴方の事はコロンから聞いたわ。キュアムーンライトでしょ?」

ゆり「どうしてコロンやその事を?」

コロン「彼女は60年前にプリキュアとして戦ったキュアフラワーだよ。」

ゆり「キュアフラワー?」

薫子「初めまして、花咲薫子よ。」

ゆり「貴方もプリキュアだったのですか?」

薫子「ええ。でも今は、普通の人間に暮らしているの。」

ゆり「どういう事ですか?」

コロン「キュアフラワーは、砂漠の使徒との戦いでプリキュアのは失ってしまったんだ。」

ゆり「そんな。」

薫子「ゆりちゃん。よかったら、私の咲いた花を見る?」

ゆり「いえ、結構です。私、お母さんの所に帰らなきゃいけないか

ら。」

ゆりは此処から立ち去ろうとするが・・・

ゆり「ん？」

ゆりはバラを見る。

ゆり「このバラ、綺麗。」

薫子「あら、ゆりちゃん。そのバラ、気に入ったの？」

ゆり「いえ、そういうわけじゃ・・・」

コロシ「ムーンライト。このバラはまだ咲いたばかりのバラなんだ。」

ゆり「そうなの？」

薫子「そうよ。この花を大事に咲かすと、よっぽど綺麗な花になるのよ。」

ゆり「綺麗な花に・・・」

薫子「ゆりちゃん、これからプリキュアとして砂漠の使徒と戦う？」

ゆり「勿論戦います。私はお母さんや皆の心を守るために、私は戦います。」

薫子「そう。」

ゆり」「よろしくね」「ロン。」

「ロン」「こちらこそ、ムーンライト。」

そして、月影ゆりことキュアマーンライトは、プリキュアとして砂漠の使徒と戦い続ける事となった。

新たな始まり（後書き）

次回は熟れたてフレッシュ登場！

幸せの証とギンギンの戦士

クモジャキー「暴れろ！デザトリアン！」

クモジャキーは人の心の花を奪い、デザトリアンをさせ、暴れ始める。

????「貴方が砂漠の使徒の幹部、クモジャキーだね？」

????「ん？」

クモジャキーは後ろに振り向くと、そこに赤い服と胸には上がピンクと左は青と右は黄色と下には赤いクローバーがいた。

クモジャキー「誰ジャキー？」

????「私は・・・」

すると少女の姿が消えた。

クモジャキー「何処へ行ったジャキー？」

少女はデザトリアンの後ろにいた。少女はデザトリアンに攻撃し、デザトリアンは倒れる。

クモジャキー「何！？」

そこにゆりとコロンが駆けつけた際には、デザトリアンとクモジャキーの姿はなかった。

ゆり「コロン、此処に確かデザトリアンが現れた場所じゃないの？」

コロン「いや、此処のはずなんだ。ん？」

ゆり「どうしたの？ん？」

二人は前を振り向くと、少女は心の花を持っていた。そう。既にデザトリアンは少女に浄化されたのだ。

ゆり「貴方がデザトリアンを？」

????「ええ。どうしてその事を？」

ゆり「それは・・・」

????「まさか、伝説の戦士プリキュアなのね。」

ゆり「え？どうしてそれを？貴方一体・・・」

????「私は伝説の戦士プリキュア、キュアパッション。又は・・・

」

キュアパッションと名乗った少女の体が光ると、姿が変わる。

せつな「東せつなよ。貴方は？」

ゆり「私は伝説の戦士プリキュア、キュアムーンライト。又は月影ゆり。」

せつな「キュアムーンライトか。でそれは妖精？」

ゆり「ええ。」

コロン「僕の名はコロン。ムーンライトのパートナーだよ。」

せつな「中々凄い妖精だね。」

コロン「誉めてくれるなんて嬉しいね。」

ゆり「他にもプリキュアがいたなんて驚いたわね。」

せつな「プリキュアは私達二人だけじゃないわよ。貴方が入れると全部16人だよ。」

ゆり「そんなに！？コロン、知ってた？」

コロン「いや・・・。」

せつな「此処じゃ話す暇はなさそうね。取り敢えず砂漠の使徒について説明するから、キュアフラワーという人がいる所へ連れてってくれない？」

ゆり「ええ。いいわよ。」

ゆりはせつなを連れて植物園に行くところだが・・・

????「あの・・・」

男が二人に近付いて来た。

ゆり「何ですか？」

????「お二人さんは確かプリキュアですよね？」

せつな「そうだけど・・・」

????「やっといたー！」

男は叫ぶ。

????「やっといた！やっといた！やっといたー！」

ゆり「何なの貴方？」

????「俺？俺の名は伊狩凱！平和が大好きな男です！」

男は伊狩凱と名乗る。

せつな「は？」

凱「おー！すげえ！プリキュアの妖精さんだ！」

「コロン」……」

凱はコロンに抱きつこうとするが、コロンはすぐ避ける。

せつな「何なの貴方？どうして私達がプリキュアだって事知ってるの？」

凱「それは勿論、薰子さんから聞きました！」

せつな「薰子さん？」

ゆり「ちよつと持って。貴方、薰子さんから聞いたの？」

凱「勿論ですよ！俺が嘘を付くはずなんてないじゃないですか。」

コロン（変だ。あの男、キュアフラワーと会った事あるのか？そんなはずはない。きつと何かの……）

ゆり「コロン、どうしたの？」

コロン「いや、何でもない。」

凱「あの〜、よかったら貴方の仲間になってくれませんか？」

ゆり「仲間？」

凱「そうです！プリキュアと俺が協力をすれば、あんな砂漠の使徒なんか……あれ？」

凱は後ろに向けて何かをしたら、三人は何時の間にか凱を離れて植物園に行こうとした。

凱「ちょっと！俺も入れて下さいよ！」

せつな「何なのか知らないけど、あいつ等に勝てる自信はあるの？」

凱「ありますよ！」

ゆり「貴方はプリキュアではないのに砂漠の使徒と戦いたいなの？」

凱「それは・・・」

コロン「君には砂漠の使徒を倒す事は無理だよ。砂漠の使徒を倒せるのは、プリキュアしかないんだよ。」

凱「確かに俺はプリキュアじゃないけど、でも俺は・・・」

ゆり「貴方がプリキュアじゃないのなら、仲間になる必要はないわ。」

三人はこの場から去る。

凱「どうしよう？俺、何をしたらいいんだろう？？」

凱は悩んだ。

凱「うん・・・」

そして凱は閃いた。

凱「そうだ！あの子達がピンチになった時、俺が駆け付けければ、きっと俺の事件間になってくれるはずだ！よし、やるぞー！」

砂漠の使徒の基地

サバーク「何？もう一人のプリキュアが現れただと？」

クモジャキー「はい。」

クモジャキーは砂漠の使徒の基地に帰還し、この事をサバークに伝える。

コブラージャ「もう一人のプリキュアか。」

クモジャキー「何の用ぜよ？」

コブラージャ「別に・・・。」

サバーク「コブラージャ、行くのか？」

コブラージャ「はい。勿論です。」

サバーク「好きにしる。」

コブラーシヤは消えた。

サバーク「キュアムーンライト。」

キュアムーンライトVSダークプリキュア 初めての戦い PART 1 (前書き)

久々の更新です。

キュアムーンライトVSダークプリキュア 初めての戦い PART 1

植物園では、ゆりはせつなに砂漠の使徒の事について説明した。

せつな「成る程ね。貴方がキュアムーンライトになって砂漠の使徒と戦い続けてるんだね。」

ゆり「ええ。」

コロシ「砂漠の使徒は手強いからね。まず、プリキュアの仲間を集めないと・・・。」

ゆり（仲間・・・）

せつな「だったら私も手伝うわ。私の知ってる人がプリキュアだから、今連絡するわ。」

せつなはリンクルンで他のプリキュアにこの事を伝えようとするが・・・

ゆり「持って。」

ゆりは呼び止める。

コロシ「ムーンライト、どうしたんだい？」

ゆり「砂漠の使徒と戦うのに、他のプリキュアを集める必要があるの?。」

せつな「え？」

ゆり「砂漠の使徒を倒すのなら、私とコロンだけでも十分よ。他のプリキュアの力なんて、私はいらないわ。」

せつな「貴方、何を言ってるの？ たった一人で砂漠の使徒と戦うの？」

コロン「そうだよムーンライト。相手は砂漠の使徒は分かるが、凄い手下がいる。君と僕で戦うのは……」

ゆり「大丈夫よ。私はどんな時でも、必ず負けたりはしないから。」

ゆりは微笑む。

コロン「ムーンライト。っ！」

ゆり「どうしたの？」

コロン「ムーンライト、砂漠の使徒だよ！ しかもこの気、初めてムーンライトと出会った彼女の気だ！」

ゆり「（まさか、ダークプリキュアっていう奴？）分かったわ。」

せつな「だったら私も……」

ゆり「言ったでしょ？ 私とコロンと一緒に、砂漠の使徒と戦うって。」

せつな「でも罨だしたら……」

ゆり「例え罷だろうと、私は関係無いわ。私は私で戦うから、だから私の邪魔はしないで。」

せつな「貴方……」

ゆりとコロンは砂漠の使徒が現れた場所へ向かった。

ダークプリキュア「来たか。」

ダークプリキュアの前に、ゆりとコロンがいた。

ダークプリキュア「月影ゆり、又はキュアムーンライト。お前と私の初めての戦いになりそうだ。」

ゆり「ええ、そのようね。コロン、行くわよ。」

コロン「ああ、プリキュアの種、行くよ。」

コロンの体から、心の種が出て来た。

ゆり「プリキュア、オープンマイハート！」

ゆりはプリキュアの姿に変身した。

ムーンライト「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト！」

ダークプリキュア「来い。」

その頃、遠くから木の上に乗ってるサバークは二人を見た。

サバーク「……」

ムーンライト「私から行くわ。ハアー！」

ムーンライトはダークプリキュアに突撃し、連続パンチやキックをする。ダークプリキュアは全て止めた。

ダークプリキュア「少しはやるようだな。だが……」

ダークプリキュアは左目を開けると、凄い衝撃波でムーンライトに届く。

ムーンライト「くっ！（何てパワーなの？）」

コロン「ムーンライト！大丈夫かい？」

ムーンライト「ええ、大丈夫よ。流石に今まで戦って来た沙漠の使徒とは少し厳しいかもね。」

ムーンライトは立ち上がる。

ダークプリキュア「キュアムーンライト。貴様がいるとサバーク博士の計画が進めなくなる。だからお前は邪魔だ。」

ムーンライト「そう。でも邪魔なのは貴方の方よ。これ以上、皆の心を傷付くわけにはいかないから。」

ダークプリキュア「だったらやって見る。」

するとせつながやって来た。せつなは二人の戦いをじっと見た。

せつな「・・・」

キュアムーンライトとダークプリキュアの戦いが今、始まる。

キュアムーンライトVSダークプリキュア 初めての戦い PART1 (後書き

ダークプリキュアも書き始めましたので、よかったら感想を下さい。

キュアムーンライトVSダークプリキュア 初めての戦い PART 2

ムーンライト「ハァー！」

ダークプリキュア「ハァー！」

ムーンライトとダークプリキュアは高く飛び、ムーンライトは連続パンチで、ダークプリキュアは防ぎ、すぐにパンチをする。ムーンライトはすぐ避け、地表に着陸する。

ムーンライト「ダークプリキュア。どうしてこんな事を？」

ダークプリキュア「これもサバーク博士のためだ！」

ダークプリキュアは光弾を放つと、ムーンライトはムーンライトリフレクションで防ぐ。

ダークプリキュア「私はサバーク博士に作られた存在だ！なのに私は、私は……」

ダークプリキュアは涙を出す。

ムーンライト（泣いてる？）

ダークプリキュア「お前がいると、私の体がおかしくなる！だからお前の存在が邪魔だ！」

ダークプリキュアはパンチをする。ムーンライトは片手で止めた。

ムーンライト「貴方、悔しいの？貴方此処の人間なの？」

ダークプリキュア「そうだ！私は此処に生まれた人間だ！」

ダークプリキュアはキックでムーンライトは足をひきずりながら吹っ飛ばす。

ダークプリキュア「私は友達がいっぱいいて、お父さんやお母さんがいて、凄く幸せだった。なのに4年前、私は友達遊びに行こうとしてる最中、車に跳ねられて、私は死んだ。」

ムーンライト「・・・」

ダークプリキュア「だからサバーク博士に、私の体を改造し、私をダークプリキュアにさせた。サバーク博士は私を受け入れてくれた！だが、地球を砂漠化して、キュアムーンライトを倒せば、私を受け入れてくれるはずだ！だからお前が邪魔だー！」

ダークプリキュアは叫びながら、パンチでムーンライトは避けずに当たり、木まで吹っ飛ばす。

コロん「ムーンライト！」

コロんはムーンライトの所に行こうとしたが・・・

コロん「むっ！」

コロんは何者かに捕まってしまう。

ダークプリキュア「ハア、ハア、ハア・・・」

ムーンライトはすぐ立ち上がる。

ムーンライト「そうだったのね。貴方辛かったんだ。この希望ヶ花の事……」

ダークプリキュア「何が言いたんだ貴様！」

ムーンライト「私は貴方を倒す。だから全ての心が満ちるまで、私は戦い続ける！」

ダークプリキュア「……」

ムーンライト「集まれ、花のパワー！ムーンタクト！」

ムーンライトはムーンタクトを出す。

ムーンライト「花よ耀け！」

???「そこまでだよ、キュアムーンライト。」

二人は声がした方へ向くと、そこにはコブラージャがいた。コブラージャの手には、コロンがいた。

ムーンライト「コロン！」

コブラージャ「キュアムーンライト、動けばこの妖精の命はないよ。」

ダークプリキュア「余計な真似をするな！」

コブラージャ「別に僕は余計な事はしてないよ。ただ君が苦戦してるから妖精を人質にしたただだよ。」

ムーンライト「コロンを離しなさい！」

コブラージャ「離れたければ、君は此处から消えなければいけないだよ。」

ムーンライト「くっ！」

???「だったら二人の戦いを邪魔しない方が特なんだけど。」

コブラージャは後ろに振り向くと・・・

コブラージャ「な！」

パッション「たあっ！」

パッションはコブラージャにパンチをし、人質になったコロンを助ける。

コロン「君は・・・」

パッション「大丈夫？」

コロン「ああ。」

パッション「こんな所で会うなんて、偶然だね。キュアムーンライト。」

ムーンライト「貴方・・・」

パッション「ただちよっと通ってる最中、何かやってるから来ちゃったの。安心して、ムーンライトの邪魔はしないから。」

ムーンライトはニヤツと笑う。

ムーンライト「勝手にしなさい。」

パッション「ええ。勝手にするわ。」

パッションはコブラー ज्याの相手をする。

コブラー ज्या「おや、君が僕の相手かい？」

パッション「ええ。二人の邪魔はさせないわ。」

コブラー ज्या「別に邪魔するつもりはなかったけど・・・まあ良いや。スナツキー！」

コブラー ज्याの周りから、多数のスナツキーが現れた。

パッション「派手に、行くわ！」

コブラー ज्या「やれ！」

スナツキー「キー！」

パッションは突撃しようとしたその時・・・

鎧「ちよつと持ったー！」

突然鎧が現れ、パッションの戦いを割り込む。

スナツキー「キ？」

コブラージャ「な、何だね君は？」

パッション「また貴方！？危ないから逃げなさい！」

鎧「大丈夫ですよ。俺も混ぜて下さい。」

パッション「ハア、貴方ね・・・ん？」

鎧は携帯のような物と鍵のような物を出すと、鍵は携帯の入れ、次に・・・

鎧「豪快チェンジ！」

リダイヤルを押してから、そして・・・

ゴークイジャー！

鎧は海賊のような銀色の姿に変身した。

コブラージャ「何！？」

パッション「え？」

「???」うわ、これがゴークイジャー！初めて変身したよ！」

パッション「初めてなの!？」

「???」はい！」

パッション「というか貴方誰!？」

「???」俺は伊狩鎧ですけど。」

パッション「そこじゃなくて、その姿は何!？」

「???」あ、この姿ですか?この姿は……。」

銀色の戦士が喋る途中、コブラージャはカードを投げる。

パッション「お話し中だから、邪魔しないで!」

コブラージャ「いい加減にしろ!こっちは持ってられないんだ!君は何だ!？」

「???」あ、紹介します。俺の名は、ゴークイ……シルバー!」

ゴークイシルバーと名乗った戦士の後ろから、銀色の爆発が起きました。

パッション「ゴークイシルバー?」

ゴークイシルバー「一応ゴークイジャー六人目の予定ですかね?」

パッション「予定って・・・」

コブラージャ「スナツキー！」

スナツキー「キー！」

スナツキー達は走る。

パッション「で、貴方・・・」

ゴーカイシルバー「ギンギンに行くぜ！」

パッション「ちょっと！私の話ちゃんと聞きなさい！」

キュアムーンライトVSダークプリキュア 初めての戦い PART 3

パッション「たあ！」

キュアパッションとゴーカイシルバーは多数のスナツキーと相手をしていた。

ゴーカイシルバー「ゴーカイスピアー！」

ゴーカイシルバーはゴーカイスピアーを出す。

ゴーカイシルバー「フツ、オラツ！」

ゴーカイシルバーはスナツキーを攻撃しながら、スナツキーを持ち投げる。

スナツキー「キー！」

パッション「貴方、凄いじゃない。」

ゴーカイシルバー「パッションさんだって凄いですよ！」

パッション「そう。」

パッションの後ろには、スナツキーがいた。

ゴーカイシルバー「パッションさん！」

パッション「知ってるわよそんな事。」

パッションは後ろにいたスナツキーを攻撃した。

ゴークイシルバー「良し、止めは俺に任せて下さい！」

ゴークイシルバーはレンジャーキーを出し、ゴークイスピアをさす。

ファインナルウェイブ！

ゴークイシルバー「ゴークイ・・・シューティングスター！」

ゴークイシルバーは高く飛び、ゴークイスピアを投げ、半数のスナツキーを倒した。

ゴークイシルバー「良し！」

ゴークイシルバーの後ろからスナツキーが襲いかかる。

ゴークイシルバー「やばっ！」

ゴークイシルバーの後ろには、何時の間にかパッションがおり、スナツキーを倒した。

パッション「油断しないでね、ゴークイシルバー。」

ゴークイシルバー「ありがとうございます。」

パッション「さあ、行くわよー！」

「ゴーカイシルバー」はい！」

それを見たコブラージャは……

コブラージャ「ほう、中々やるじゃないか。」

クモジャキー「何を見てるジャキ？コブラージャ。」

そこに、クモジャキーとサソリーナがやって来た。

サソリーナ「そうよ、見てないでたまには助けなさい。」

コブラージャ「分かってるよ。」

サソリーナ「でも、サバーク博士は帰れと言っていたわよ。」

コブラージャ「何故なんだい？」

クモジャキー「サバーク博士が言っていたぜよ。私の計画を邪魔するなと……」

コブラージャ「ま、サバーク博士の作戦なら、しょうがないか。」

すると三人の姿は消えた。三人はパッションとゴーカイシルバーのいる所へ向かった。

その頃、ダークプリキュアと戦っているキュアムーンライトは・・・

ダークプリキュア「ハアッ！」

ダークプリキュアはパンチに続いてキックをするが、ムーンライトはすぐ避ける。

ムーンライト「フッ！」

ダークプリキュア「くっ！」

ムーンライト「それで全力？」

ダークプリキュア「おのれー！」

ダークプリキュアは左目を開くと、衝撃波が起こし、ムーンライトは衝撃波を耐えた。

ムーンライト「ダークプリキュア。超えてはならない一戦を乗り越超えた。」

ダークプリキュア「だったら止めてみる。私を！」

ダークプリキュアは場所を変えようと空を飛んだ。

ムーンライト「逃がさないわ。コロソ！」

コロン「ああ！」

ムーンライトはマントをつけ、空へ飛んだ。

ムーンライト「プリキュア！フローラルパワー、フォルテツシモ！」

ダークプリキュア「ダークパワー、フォルテツシモ！」

ムーンライトとダークプリキュアの必殺技が激突しあう。

ムーンライト「ハアアアアア！」

ダークプリキュア「ハアアアアア！」

二人はぶつかると、大爆発が起こった。果たして、ダークプリキュアの戦いに勝つのはキュアムーンライトか？それともダークプリキュアか？

キュアムーンライトVSダークプリキュア 初めての戦い PART 3 (後書き)

次回は最終回・・・かも？

キュアムーンライトVSダークプリキュア 初めての戦い FINAL PART

PART3を編集しました。

パッション「ハア、ハア・・・」

パッションとゴーカイシルバーは全てのスナツキーを倒した。

ゴーカイシルバー「やっと倒した。どんだけ数がおるのですか？」

パッションはゴーカイシルバーに手を差し述べる。

パッション「大丈夫？伊狩鎧。」

ゴーカイシルバー「あ、はい。」

パッション「貴方にしては上出来ね。貴方の力、認めるわ。」

ゴーカイシルバー「ホントですか！？ありがとうございます師匠！」

パッション「誰が師匠よ誰が！」

ゴーカイシルバー「あ、すいません。」

パッション「でも・・・」

パッションはゴーカイシルバーにパンチをする。ゴーカイシルバーにギリギリ当たる所までパンチをした。

パッション「まだまだだよ。」

ゴークアイシルバー「え？」

パッション「攻撃の仕方はまだヒヨッコ。それに、私を助けたのはいいけど、自分の周りを考えなさい。」

ゴークアイシルバー「はい、師匠。」

パッション「だから師匠じゃ・・・」

するとムーンライトとダークプリキュアが必殺技が激突し合うと、爆発がした。

パッション「まさかムーンライト、ダークプリキュアと・・・」

ゴークアイシルバー「行きましょう、師匠！」

パッション「ええ。て私は師匠じゃない！」

パッションは突っ込んでから爆発した方へ向かう。その頃、ムーンライトとダークプリキュアは同時に地表へ降りる。

ムーンライト「くっ！」

ムーンライトは体に傷が響くと、地面に倒れる。

ダークプリキュア「フン、ぐっ！」

ダークプリキュアも体に傷が響くと、地面に倒れた。

ゴークアイシルバー「これってまさか・・・」

パッション「引き分け？ムーンライト！」

ゴークアイシルバーとパッションはムーンライトの所に駆け寄る。

ゴークアイシルバー「大丈夫ですか！？」

ムーンライト「ええ。」

ダークプリキュア「くう、まだだ！」

何とダークプリキュアは立ち上がった。

パッション「まだ戦うの！？」

ゴークアイシルバー「ムーンライトさん、此处は俺達に任せて……」

ムーンライト「持ちなさい！」

ゴークアイシルバー「え？」

ムーンライト「ダークプリキュアは、私がやるわ。だから手を出さないで！」

ゴークアイシルバー「でも！」

コロ「二人とも、ムーンライトを信じよう。」

パッション「そうね。」

ダークプリキュア「ムーンライト、貴様だけは！」

ダークプリキュアは必殺技の準備をする。

ムーンライト「・・・」

ムーンライトも必殺技を準備しようとした。しかし・・・

サバーク「もう止せ、ダークプリキュア。」

そこに、サバークがやって来た。

ダークプリキュア「サバーク博士。」

ムーンライト「あれが、サバーク。」

サバーク「ダークプリキュア、引きあげるぞ。」

ダークプリキュア「サバーク博士、しかし！」

サバーク「お前の体はもう限界だ。それに、キュアムーンライトを倒すのはまだ早過ぎる。撤退だ。」

ダークプリキュア「くっ、分かりました。」

サバーク「引くぞ。」

サバークとダークプリキュアはこの場を去ろうとした。するとムーンライトはサバークに声をかける。

ムーンライト「持ちなさい！貴方はどうして地球を砂漠化するの！
？貴方の目的は何なの！？」

するとサバークは立ち止まる。

サバーク「君には関係ない事だ。」

ムーンライト「え？」

ムーンライトはサバークを見ると、体が震え始める。

ムーンライト（何この感覚？何処か懐かしいような・・・）

サバークとダークプリキユアは消えた。

ムーンライト「サバーク・・・」

一同は変身を解き、植物園に入った。

コロン「旅に出るのかい？」

せつな「ええ。元々私は、希望ヶ花で生まれた人じゃないからね。」

鎧「え？じゃあ師匠が生まれた町って何ですか？」

せつな「そうね、占い館かしら。」

ゆり「占い館？」

せつな「それと伊狩鎧。何度も言うけど私は師匠じゃない！貴方は

私の弟子か!」

鎧「すみません。」

せつな「まあいいわ。それじゃあ私は帰る。じゃあね。」

せつなは希望ヶ花から去った。

鎧「さようなら師匠!」

ゆり「貴方はどうするの?」

鎧「俺は勿論……」

『鎧……伊狩鎧。』

鎧「ん?」

すると何処からの声がした。

ゆり「どうかしたの?」

鎧「いえ、何でも……」

『鎧。お前の役目は終わった。元の世界へ帰るぞ。』

鎧「え?」

すると鎧の体が消え始める。

ゆり「やっぱり貴方、別世界から来たのね。」

鎧「あ、はい。」

コロシ「じゃあ君はキュアフラワーに頼んだ事は嘘だったんだね。」

鎧「すいません、嘘ついちゃって・・・本当は俺、アバレキラースン達から頼まれたんです。」

ゆり「やっぱり・・・。」

鎧「でも俺、ムーンライトさんと師匠と戦えてよかったと思います。ですから砂漠の使徒の戦いは、ムーンライトさんに任せます！」

ゆり「そう。貴方の世界も頑張つて頂戴。」

鎧「はい！俺もいつか、この世界に来ます！だからムーンライトさんも頑張つて下さい！」

ゆり「ええ。さよなら、伊狩鎧。」

鎧は消えた。

コロシ「ムーンライト、これからどうする？」

ゆり「決まってるじゃない。私はプリキュアとして戦う。サバークやダークプリキュア、砂漠の使徒も・・・私だけで倒す！」

コロシ「うん。ムーンライト、一緒に頑張ろう。」

ゆり「ええ！」

そして、月影ゆりことキュアムーンライトはプリキュアとして、
一人で戦う事を決意した。皆の心や笑顔を、守るために……

完

これで二つ目の小説は完結になりますが、まだ完結しません。何故ならこの小説の外伝を三部作を作らなければなりません。第一弾はせつなと第二弾は鎧と第三弾はゆりとつぼみ達です。それと、ダークプリキュアについては執筆はまだ先となります。僕はまだ仮面ライダーエターナルはまだ見てないので・・・完結が早過ぎたかもしれませんが、いい感想を書いてくれるのなら幸いです。

『外伝第一弾』、あれから・・・

東せつな。元はラビリンスの部下、イース。彼女は人々の幸せをなくすために不幸のゲージを集めていた。しかし、伝説の戦士プリキュアが現れ、作戦は失敗する事もいつぱいあった。イースはラビリンスの総統、メビウスから貰ったナキサケーベのカードでプリキュアを苦しめた。だがナキサケーベのカードを使うと、自分の体を苦しめる危険なカードだった。カードを全て使い、使い者がなくなりかけていたイースは桃園ラブことキュアピーチの最後の対決で引き分けになり、幸せのある所へ行こうとしたが、寿命が尽きてしまう。その時、アカルンがイースの体内に入り、伝説の戦士プリキュア、キュアパッションとして復活した。最終決戦ではキュアエンジニアとなり、浚われたシフォンを連れ戻し、南瞬ことサウラーと西隼人ことウエスターは幸せを掴み、そしてノーザークライン、メビウスを倒す。四つ葉町は再び幸せに訪れた。せつなはラビリンスの幸せを訪れるため、隼人と瞬とともにラビリンスの世界へ帰った。

せつな「ん、ん〜気持ち良い。」

せつなは古い館で幸せに暮らしていた。

せつな「ラブや皆、幸せに暮らしてるのかな？」

隼人「きつと暮らしているに決まっているよ。」

そこに、隼人が横から入って来た。

せつな「隼人、何でいつも私の横に入るの？」

隼人「いやだつて、皆幸せそうに暮らしているのならラビリンスの皆だつて幸せに暮らしてるじゃないか。せつな、俺達はもう幸せじゃないか。」

せつな「そうかもね。でも貴方がいると凄く不幸になるわ。」

隼人「は！？何で！？」

瞬「確かに、お前ドーナツダンスとかそういう変な事をやるから僕とせつなは不幸なんだよ。」

隼人「いいじゃん！あれ@¥#/ - ¥ # . . . 」

せつな「は？」

瞬「隼人、お前言葉噛んだよな？」

隼人「噛んでないよ！俺は言葉なんか噛んでないからね！」

せつな「もう . . . 」

その後、せつなは外に出た。

せつな「隼人つたらもう、どんだけ私と瞬を不幸させる気なの？」

『せつな。東せつな。』

せつな「ん？」

するとせつなは誰かの声が聞こえた。

せつな「気のせいかな。」

せつなはそう思ったが・・・

『東せつな、俺に頼みたい事がある。』

せつな「え？」

すると風景の位置が変わった。

せつな「何これ？ん？」

せつなは後ろに振り向くと、龍のような緑の戦士がいた。

せつな「何？」

せつなは右に振り向くと、銃を持った赤い戦士がいた。

せつな「ラビリンズじゃなさそうね。」

せつなは左へ振り向くと、白い戦士がいた。

せつな「貴方なの？私を呼んだのって・・・」

白い戦士は変身を解除すると、男の姿に戻る。

????「そうさ。俺がお前を呼んだのさ。」

せつな「そうなの？で、私に頼みたい事って何？」

「???」実はお前が暮らしている世界に、伝説の戦士プリキュアがいるんだ。」

せつな「知ってるわよ。四つ葉町の事でしょ?」

「???」違うよ。お前が暮らした町とは違う町、希望ヶ花だ。」

せつな「あそこにプリキュアがいるの?」

「???」そう。名前はキュアムーンライトだ。」

せつな「キュアムーンライト。」

「???」月の光って呼んだ方がいいな。だからお前に・・・」

せつな「希望ヶ花へ行かせて貰う事を頼みに来た。でしょ?」

「???」そうだ、希望ヶ花の町でときめけ。」

せつな「ええ、分かったわ。」

すると男は白い戦士に変身した。

「???」役目を果たせよ。」

三人の戦士は消えると、せつなのいた場所へ戻った。

せつな「希望ヶ花。」

するとアカルンが現れ、アカルンはキーに変わり、リンクルンにさす。

せつな「じゃあ行くよ、希望ヶ花へ！」

するとせつなは消えた。キュアパッションとキュアムーンライトの出会いが幕を開ける。

『外伝第一弾』、あれから・・・(後書き)

次回は鎧編。

『外伝第二弾』、役目

伊狩鎧。彼は普通の人間として暮らしていた。そのはずだった。道路から飛び出した少女がトラックにはねようとしたのを鎧は身代わりとなり、怪我を負ってしまった。病院へ入院した鎧は、誰の声が聞こえ景色は変わった。鎧の前に現れたのは、ドラゴンレンジャーとタイムファイアーと仲代美琴ことアバレキラーがいた。美琴は鎧に「ゴーカイセルラーとレンジャーキー、ジュウレンジャーやタイムレンジャーとアバレンジャーの大きいなる力を与え、美琴は『一番のヒーローになれ』とこう告げた。そして鎧はゴーカイシルバーの力を手に入れたのだ。

鎧「……」

鎧はゴーカイセルラーとレンジャーキーを見つめていた。

鎧「俺って、スーパー戦隊の皆さんのようにヒーローになれるのかな？」

鎧は少し不安だった。

鎧「それにしても大きいなる力って何々だろう？」

鎧は美琴が言っていた大きいなる力は一体何なのか分からなかった。

鎧「ひよつとして、凄い物かな？」

『鎧。伊狩鎧。』

鎧「ん？」

すると鎧は誰かの声が聞こえていた。

鎧「気のせいかな。」

鎧はそう思っていたが……

『伊狩鎧。お前に頼みたい事がある。』

鎧「え？」

またもや声が聞こえると、景色が変わった。

鎧「これって……」

鎧は後ろに振り向くと、そこにはドラゴンレンジャーとタイムファイアー、アバレキラーがいた。

鎧「あ、皆さん。この間はありがとうございます。」

アバレキラーは変身を解除する。

美琴「気にする事はないさ。それに、ゴーカイシルバーの力はどうか？」

鎧「あ、すみません。まだ使っていないんです。」

美琴「そうか。まだ敵はいなかったよな。」

鎧「はい。それと、頼みって何ですか？」

美琴「実はな、お前にプリキュアの世界へ行かせて貰う事を頼みに来たんだ。」

鎧「プリキュアって、もしかして伝説の戦士プリキュアですか！」

美琴「そうさ。あの扉に入れば、プリキュアの世界へ行く事が出来る。どうする？」

鎧「行きます。俺はゴーカイシルバーの力、使いたいです！」

美琴「お前ならそう言うと思った。プリキュアの世界へときめけ。」

鎧「はい！」

すると扉が開くと、鎧はその扉に入った。

美琴「役目を果たせよ、伊狩鎧。」

美琴はアバレキラーに変身し、三人は光となって消えた。

『外伝第二弾』、役目（後書き）

次回、ゆりとつぼみ達

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9471t/>

ハートキャッチプリキュア外伝 ビギンズナイト キュアムーンライト物語

2011年9月5日15時10分発行